市民国際プラザ －ダイジェスト－

第100号　（2021年1月29日発行）

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**を実際に取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

○長野県駒ヶ根市役所、ネパール交流市民の会

2020年8月24日　場所：ZOOMオンライン

◆新型コロナ禍での国際協力―「ハッピー」な気持ちが循環するために

↑新型コロナ禍での国際協力の1コマ。長野県看護大学とのオンライン研修のご様子です。

長野県駒ヶ根市―「国際交流と多文化共生の推進」を市の総合計画の1つとして定め、1979年のJICA海外協力隊訓練所の設置以来、隊員や訓練所などを地域の特性として、連携したまちづくりを行っています。また2001年にネパール国ポカラ市と国際協力友好都市となり市民同士の交流や協力を続けています。今回、市民国際プラザでは同市役所の矢澤国明さんとネパール交流市民の会の北原照美さんから、ネパールへの母子保健の協力に関し、お話を伺いました。

「安心安全な出産のための母子保健事業」。（一財）自治体国際化協会が提供する自治体国際協力促進事業（モデル事業）や、（独法）JICA草の根技術協力事業などの支援を得て実施する国際協力です。今回お話を伺ったのは前者のモデル事業について。受託決定は2020年。新型コロナの感染拡大「前」でした。年が明け、新型コロナの影響が現実に。当初想定していた日本・ネパール間の人材の往来―長野県看護大学での研修など―や市民による国際交流など、望むことはできません。

国際協力の継続は同市の特徴を活かした「まちづくり」の一貫として重要です。またJICA草の根事業を通じて根付き始めた妊産婦ケアを継続発展させるための「母子保健研修センターの人材育成事業」を断念し、後退する可能性を受け入れることができませんでした。2020年8月のインタビュー時点では、オンラインの活用―継続的な基礎研修の実施、受講人数の増加、料理教室、音楽、ダンス交流など―や待機措置となったJICA海外協力隊員や市民の皆様方―小学生から高齢者まで―の協力を得ながら、工夫を重ねる形で事業を継続しています。

2021年度、どのような形で事業を実施するべきか。北原さんは市民国際プラザからの質問に対して「非常に難しい問題・・・」と前置きしながら「今だからこそ人と人との支え合いの気持ちを大切にしたい」と答えてくれました。

「私たちは、“国際”というより”市民と市民の民際“という言葉を使って活動する。例えば福祉施設の年配の方が作成した赤ちゃん用の帽子やメッセージカードをネパールの方々へ届ける。そうすると「日本のみなさんが私たちのために・・！」と非常に喜んでくれる。そのことをお伝えすると、皆さん一様に満面の笑顔で喜んでくれる」

北原さんは「活動を通じて、少しでもこうしたハッピーな気持ちを両国間で循環させていければ」と続けます。

これからも引き続き、ネパールとの国際協力を目指す長野県駒ヶ根市。さらなる飛躍が期待されます。

＝＝＝

市民国際プラザ －ダイジェスト－

第100号　（2021年1月29日発行）

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**を実際に取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

○（特活）アジャスト（愛知県犬山市）

2020年9月29日　場所：ZOOMオンライン

◆「やれば、できる」、「ここでできたのだから、他の場面でも大丈夫」を目指して

外国につながる小・中学生などを中心に愛知県犬山市で高校進学・学習支援に携わる（特活）アジャスト。市民国際プラザでは副代表の清長摩知子さんから団体の活動内容についてお話を伺いました。

同団体の支援する子どもたちのクラスは主に3つ。1つ目は中学生を対象としたさくら教室。「全日制の公立高等学校」への進学を目指す外国につながる子どもたちが支援の対象です。日本語の日常会話に問題を抱えた生徒や会話に問題がなくても学習となると・・・という生徒などが、清長さんたちの元を訪れます。

2つ目は小学5年生以上を対象としたつぼみ教室。「小学校高学年のつまずきポイントを教える」活動です。「つぼみ」が「さくら」として開花し、満開となる日を迎えるためには、ここでのつまずきを避けることが重要です。他にも「寄付の教室」への参加や科学館の訪問といった体験活動も行っています。

3つ目はアジャスト犬山教室。発達障がいや、それに類する子ども達の学習支援を個別で行っています。こちらは国籍に関係のない活動です。

清長さんたちが、高等学校への進学でも「全日制」にこだわって支援を行うのは外国につながる子どもたちの将来を考えてのこと。

↑開室以来の合格者の皆様方。毎年第一志望校に合格しているとのこと。おめでとうございます!!

↑学習のご様子。
皆様、集中できる机と椅子で勉強します。

「アジャストの支援を受ける生徒・児童の多くは、日本生まれ、日本育ち、そして将来も日本で過ごす人々。高校受験をしっかり頑張ってくれており本当に嬉しい。ここで成功体験を積み重ねて、「やればできる」、「ここでできたのだから、他の場面でも大丈夫」と思いながら、大人になってくれれば、と思う」

清長さんたちは、こうした成功体験を積み重ね、さくら教室から色々な「ロールモデル」を発信することができればと考えています。さくら教室を卒業した子どもたちの活躍―高校で勉学に励む子、指定校推薦で大学進学した子、正社員として就職が無事に決まった子、県教員採用試験に合格した子など―を聞くたびに、やりがいと喜びを感じる（特活）アジャストのメンバーたち。

支援を受けた子どもたちが、またさくら教室に戻って、次の世代のかつての自分たちを助けてくれる。そんなサイクルの安定を目指し、日々、活動に従事しています。

［（特活）アジャスト］https://npo-adjust.jimdofree.com/

◆ ZOOMによるオンライン相談を開始しました！　市民国際プラザでは、国際協力および多文化共生における自治体、地域国際化協会とNGO・NPO等との連携や、地域の国際化、多文化共生の推進などに関する相談を受け付けております。オンライン相談をご希望の場合は、下記メールにご連絡下さい。

メールアドレス：international_cooperation@plaza-clair.jp

（※お電話や、メールでのお問合せ・ご相談は従来通り受け付けております）

～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに**「いいね！」**をお願いします！♪

（一財）自治体国際化協会　市民国際プラザ
URL　http://www.plaza-clair.jp　E-mail　international_cooperation@plaza-clair.jp